



一輪草まつり

4月20・21日の2日間、ふるさとの森興禅院・赤堀用水沿い斜面林の一輪草自生地(市指定天然記念物)で開催。安行中学校合唱部・吹奏楽部も参加しハイカーや家族連れでにぎわいました。斜面林のわき水を生かした小川では、この地の保全に取り組む「安行みどりのまちづくり協議会」会員が飼育したホタルの幼虫が来場者の手で放流されました。



スプリングフェア2013

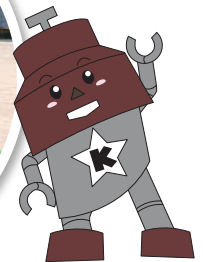
5月3～6日にグリーンセンターで開催されました。園内のさまざまなアトラクションや春の草花を来場した多くのかたが楽しみました。

KAWAGUCHI PUBLICITY



第25回みどりの地球号in安行

5月5日、安行スポーツセンターで開催。青空の下、苗木の無料配布や模擬せり市、ふれあい動物園などが行われ、多くの来場者でにぎわいました。





第26回 グリーンロード・ ウォーキング

4月29日に開催。戸塚安行駅を起点に川口自然公園や見沼用水沿いを通る約12キロのコースを歩きました。参加者は、新緑の中、春の草花など自然を満喫しました。



エクササイズ ちよう じゅう ぎ が 鳥・獣・擬・我

4月21日にアートギャラリーアトリアで開催。美術家で元総合格闘家の飯島浩二氏が講師となり、動物の動きをまねするエクササイズを行いました。参加した子どもたちはワニの動きを真似したり、企画展を鑑賞し楽しいひとときを過ごしました。



COMMUNITY

マイシティ
かわぐち

MYCITY

ひと・歴史・かわぐち Vol. 6

このコーナーでは「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」に登場した川口ゆかりの人物を紹介していきます

城春にして草木深し

こみやまだんじょうのすけただたか
小宮山弾正忠孝

今回は、戦国時代後期、戸塚城を拠点に当時の戸塚村・根岸村付近を知行地としていた小宮山弾正忠孝をご紹介します。

「同二百貫文 小宮山弾正忠孝」。北条氏に属する成田氏長の一門と家臣の知行高を、天正10年(1582)に記した「成田家分限帳」の一文です。
忠孝は、忍城主成田氏長(天文11年(1542)〜文禄4年(1595))の家臣として、関東の覇権が北条氏から豊臣氏へと移る乱世を生きた武将です。

と、当時広く使われていた永楽銭のこと。1枚が1文、1千文で1貫です。北条領の換算基準では、60文で水田なら1反(約300坪)に相当しました。二百貫文という軍役などの負担は、さぞ大変だったことでしょう。

そんな忠孝の本拠地である戸塚城が、江戸時代に編纂された『新編武蔵風土記稿』の「戸塚村」の項に、「蹟壘(せきり)とて」として登場します。現代語に置き換えてご紹介しましょう。

「天正年間の成田氏の家臣で、小宮山弾正忠孝という人の塁跡がある。(中略)ここは大門宿から続く高台で(中略)本丸らしき一段高い場所からは、綾瀬川から越ヶ谷宿を眼下に見て、筑波山が手に取れるほどの見晴らしだ。」
戸塚城の位置は、現在の埼玉高速鉄道「戸塚安行駅」付近。発掘調査で幅10m、深さ4m以上の空堀が幾重にも守る、堅固な平山城だったことが確認されました。今日、城の全容を見ることは叶いませんが、戸塚地区の高台から澄んだ空を眺めれば、忠孝の瞳にも映ったであろう筑波山が往時の景色をしるはせてくれます。

出典「成田家分限帳」

参考文献「新編武蔵風土記稿」、『川口市史通史編上』1988、川口市

空堀発掘の様子



戸塚城発掘調査図

